

業界の更なる発展のために

日本貨幣商協同組合理事長

竹内 祐司氏

日本貨幣協会会長

小川 隆司氏

新型コロナウイルスによる状況が落ち着き、貨幣催事は以前のように通常開催できるようになった。同じく休合せざるを得なかった古泉会も、今では通常通りの開催となっている。業界内はコロナ禍以前の状態に戻りつつあるが、これから業界がさらに発展するにはどうしたらよいか。今回は業者側として日本貨幣商協同組合理事長の竹内氏に、収集家側として日本貨幣協会会長

の小川氏にお集まり頂き、お話を伺った（令和六年二月五日取材）。

コロナ禍の影響と貨幣収集界の現状

竹内氏

過去五年間を振り返るとやはりコロナ禍の貨幣収集界への影響は大きかったと感じております。その中でも当組合主催である国内最大のこ

インイベント「東京国際コイン・コンヴェンション」(TICC)が二年連続で中止となってしまったことは我々業者はもろろんのこと、収集家の皆様にとっても辛いことだったと推察します。一方で、二〇二四年は貨幣収集界にとって

良い影響が重なった年であったと感じています。二〇二四年七月に発行された新紙幣三種や二〇二五年春に開幕する関西万博の記念貨幣の発行、そして記録的な地金価格の高騰と相まって既存の収集家以外のお客様もかなり増えたと感じています。

そして、新規コレクターの増加に大きな影響を与えている要因として貨幣系ユーチューバーの出現があると思います。彼らによって貨幣に興味を持つ子供たちが数年前より飛躍的に増えてきていて、先日行われた「東京コインショー」には今までに記憶がないほど多くの若年層の方々が来場されました。

小川氏

古泉会でいえば、コロナ禍で例会が出来なくなったことが影響大でした。それまでの例会は



日本貨幣商協同組合理事長

竹内 祐司氏

日本貨幣商協同組合のホームページは下記の通り
<https://www.jnda.or.jp/>